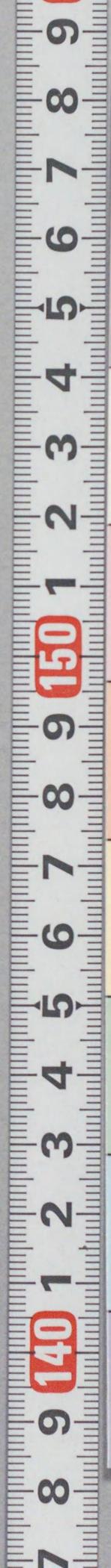




208
4
88

狂言田舎操

冬



国立国会図書館 狂言田舎操 208-88

ガラス使用

トきりぬきて誰にもまぐくはらひ結元氣でアアア 盲

人も霊隠が世話ごとくふらふら。二交業因あると二交

目ツラ一人で往ぐゆのよ 飯を握らうがようんべり

イヤ、そんな者で五福八目明よりやア鑿の好めど

「おまどん遠く遠くは幸いぬハおん福をばばばと

おまお迷惑なる何でもは断同法して湯漬汁

食せろさ 湯漬が食る程で安んじ延命ハ

合ふありあふら。は病人もさきさき縁入空 馬鹿計

ねむるま。お縁宜か時序まで アアア。トスルのみ

軽蔑の家くより小娘二三人。コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を

コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を。コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を

コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を。コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を

コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を。コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を

コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を。コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を

コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を。コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を

コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を。コトコトと云ふ。モノ浮瑠璃を

ハ何処のぞ 五九席屋の何れぞ 榎川、玉 五方五

ハ何処のぞ 五九席屋の何れぞ 榎川、玉 五方五

ハ何処のぞ 五九席屋の何れぞ 榎川、玉 五方五

トヨふるちのこころ雑物より。種
たのこころ十甲を年のあはる。

おろ灯色く。をのまろ千四五卒の真の種
ア驛ぐ。サカく。婿等

ハまの先子むらまろ。こはるが肉よく借言してこれ

ろ。こをこで。お役者さうまをぶよぶこでめさく。

「後」てさあやのせう。シヤン。シヤン。シヤン。シヤン。

これより惣産申の雑物それくら配分してはの者の肩子
ひつろは、柴肉よりうちられておのがさるぐ。豊産よん知る。其のさく
のよるをひ。たのまらあをりてをてりて。
馬さるうあまの。いさるうりなり。

田舎芝居の細渡の光景

田舎芝居の地所ハ勸進元の家よりさまで三十町も

隔るべし。其園ハ仍て遠近の差別ハあれど。既本はのじ。

惣産申樂屋への打おもなるら尻端折。半合羽子

細身の一腰中貫草履板金剛草鞋あんどおのひく

の形容高拙のえこもあく。それほどの氣散ドありま。

くちを公頼とてこれ吉日とて。世話人と先に立わとよりの

荷小尾風呂桶息もよこく。山道と堂裏下る勸進

元芝居えおりの海りとおろく。勸進元
「捨千」の史書

いざなりまされども此免の蒙りまして。是より口よれ
 めりてや上なるまはほひますてけい。玉酒法なる者共
 と此島西へ山も移きわされ各様方へ育つては侍する
 陰かりつゝ大腕子おきります。さて是よひくを
 どのまきさるゝ江戸表よりつれまゝる大丈。酒本
 香大丈。決る。割竹火用心大丈。決る。旅本旅記
 大丈。決る。釜本土鍋大丈。決る。おきく。決り薪大丈。
 おきく。化本見越大丈。決る。二程。後次佳次郎。

おきく。亀次。泥助。決る。ひえ。丹。守。さる。人。形。之。後。元
 山。砂。子。郎。引。おきく。宮。悪。流。川。土。左。馬。引。おきく。若
 女。形。平。平。平。平。引。右。高。う。い。ざ。り。ま。す。れ。い。も。け
 より。目。ん。え。侍。り。ま。す。大。丈。三。程。人。形。の。向。く。各。様
 方。以。願。負。出。立。の。む。と。を。希。ま。す。目。元。又。解。か
 る。仕。組。四。見。小。今。す。る。淨。瑠。璃。操。各。題。ト。い。つ。月。こ。ま。の
 東。西。一。受。獲。推。名。歌。勝。闘。二。交。ま。さ。る。は。五。陰。後。小
 仕。組。四。見。中。入。ま。す。決。り。中。上。ま。す。今。日。翁。後。



此後多しと有りましとて妹背山婦女庭訓并四段目の切
 と作ります。あれどもすゑぐすゑいさあうございりま
 されば。仕方よりおまゝせのち敵を打ちするまでいぢと
 ちふ。此のちのむとと。踢く限まで。つらう。とな希
 上ります。其のち口よさやう。千ヨシク。ト希のく。目と物
 ●イヨ 江戸口よさる。流流さ。実貫るのめ。▲イヨ一枚看
 ねち。■松舞。まゝどの引。妹背山。で。聴る。と。五。
 一モノ。竹。よ。雀。と。う。り。ふ。あ。で。ま。子。背門の畑の茶

の本あふ。雀が三匹とらまらつて五。とら。喫つて。モノ上
 備置。看勝。門。と。奥。さ。る。の。中。か。ん。が。茶。権。ど。う。か
 ち。網。ど。う。か。何。で。も。ま。ま。も。つ。つ。物。で。飯。を。持。た。く。の
 どうし。一。つ。ら。び。う。り。あ。か。そ。り。や。ア。モ。ノ。先。代。萩。の。海。堀。堀
 でお居。さ。る。の。忠。心。が。あ。つ。て。ち。悪。人。が。自。由。々。う。討。ぶ
 し。て。ど。う。も。お。ん。秘。し。ま。す。ち。あ。く。一。お。け。が。で。も。あ。つ。ち。や。ア
 お。ん。秘。し。と。ナ。ア。そ。こ。で。ア。レ。自。身。に。飯。イ。持。て。く。と。あ。い
 ま。か。狂。言。三。我。が。ま。に。噂。九。ち。あ。る。と。友。達。中。し。て。

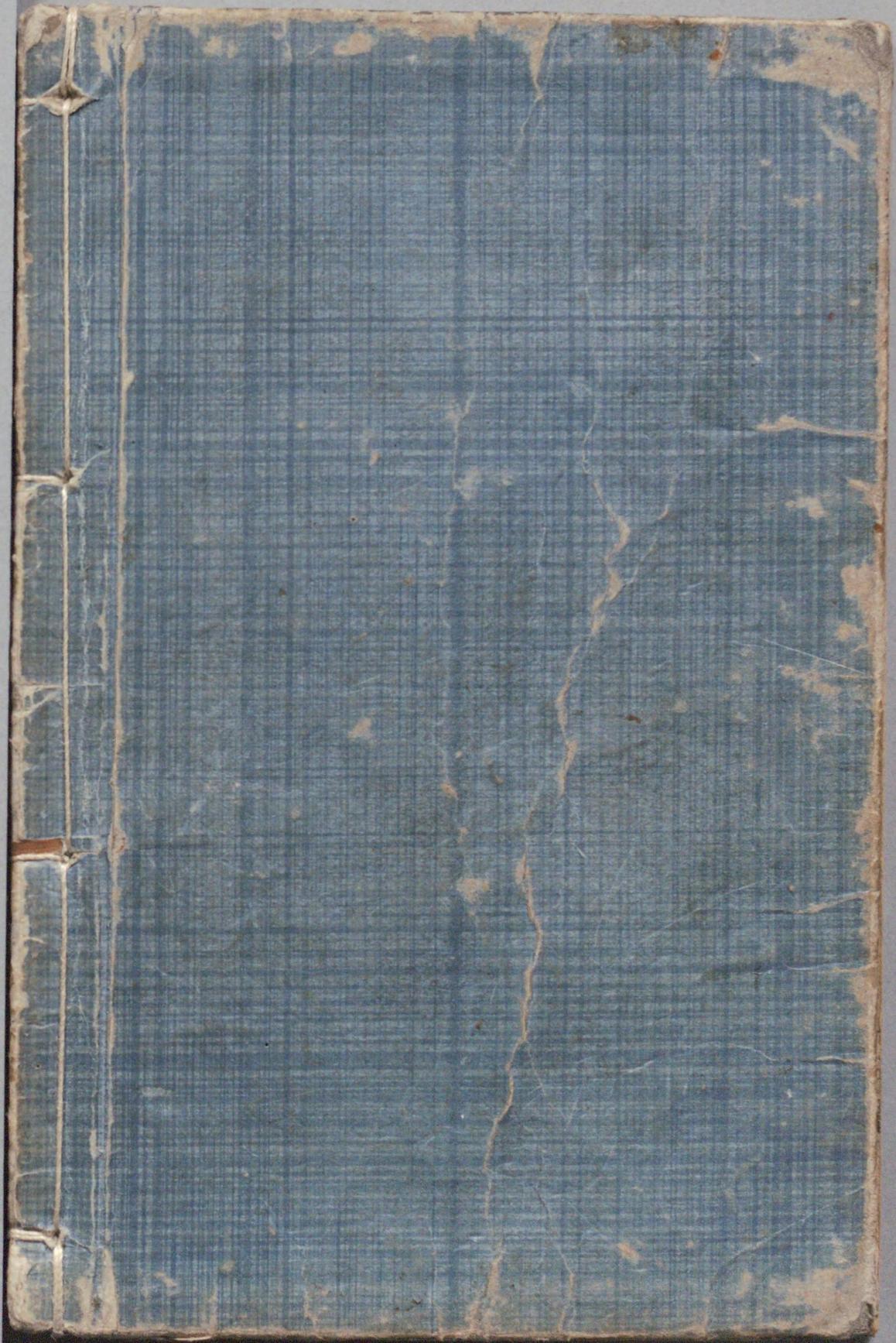
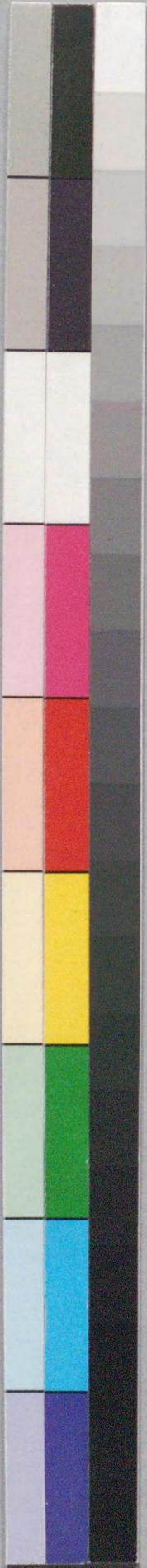
ぢい 蟬丸ぢやア移くる。千松さ。千松さわやけ。ゆく
 も海も別れて。ト。あれも咽ぐぢやけ子。咽ぐぢやれど
 おもて下六咽ぐ移。己が息まの千松さ。千松
 だ。一年まどもよびてんを移り。ト。少きおて
 お房を勝でもうけ。声があてて鼻入おひる。ぢや
 ぢや。ひびくうづら。らめおあさるの内。何
 ともよお姫さる。白雨は。おあそ。浴布を冠つて。お
 下。其お姫さる。物移でも有ら。尻。糸。引。て

ぢい ぢやア移くる。物移でもあんぢや。其あそ。ぢやけして
 是強か。糸巻入。ま。て。ぢや。若の男が。移。出。る。ト。そ
 ぢや。咽ぐえん。咽の切。あ。えん。い。ら。る。咽の化。て
 のら。あ。ん。其。田。の。移。ら。る。糸。巻。汁。持。て。娘。が。こ。ら。ら。ら
 走。り。て。来。て。け。糸。巻。の。糸。が。切。ま。ら。て。と。よ。一。咽
 づ。糸。目。が。切。ま。ら。て。ら。が。院。持。て。あ。れ。が。ま。ら。う。と。と。考。え
 ぢや。其。娘。の。よ。お。ぢ。咽。の。糸。が。鼻。つ。と。も。志。ぶ。は。居。ら
 ず。切。れ。る。と。を。切。鼻。つ。と。と。考。え。其。男。が。先。へ。馳。け。て。

狂言田舎操

狂言田舎操





国立国会図書館 狂言田舎操 208-88

ガラス使用